

Vol. XXIV, Nos. 1~12

December 1949

植物研究雜誌

THE JOURNAL OF JAPANESE BOTANY

第 24 卷 第 1~12 号 (通巻第 252~263 号) 昭和 24 年 12 月発行

The Jubilee Volume commemorating

Dr. T. Makino's 88th Anniversary

牧野富太郎先生米壽祝賀記念

巻 頭 の 辭

朝比奈泰彦

吾國植物分類学之泰斗であり、同時に本誌の創始者である牧野富太郎先生は本年を以て八十八才を祝はれ益々斯学の興隆に邁進せらるゝに当り、我等後進は茲に先生米壽記念号を発刊し祝意を表することを光榮と存じます。

先生は明治の初期已に、吾國の植物は吾國の学者自らの手で研究すべしと云ふ堅き信念の下にあらゆる困難を克服して実例を示され、当時動もすれば外人依存に陥り勝であつた学界の橋頭堡として活躍された為に、風当りは可なり強かつたが、之を乗り切られて吾國分類学を指導され、先生の風を望んで後進の輩出するもの陸續とし現在の吾國植物分類学の水準に達したのである。

先生が本誌を創刊された御趣意も、學問を一部少数の専門家丈の専有物とせず廣く一般に同好者に享受せしむるにあつたことは疑ないので、更に他方には東京と横浜の植物同好会の為には常に奮て先導の勞を採られ、各地方からの招聘にも快く指導の煩を採られた。如何なる學問でも大衆の理解と同情がなければ、進歩発達は望めないと云ふ眞理を実際に施行された点は、從來の象牙塔裡に威嚴をつくらつた狹量な學者達と鮮なコントラストを展開して居る。

先頃一時重篤を伝えられた御病氣も、已に殆ど快癒され御静養の傍ら寸時も念頭に植物を放さず、新智識の開発に努力せられつゝある。此の植物界の大先導の米壽を機として学界に呼びかけて集まつた、三拾余篇の論文は先生への感謝の一表現であると同時に今後更に先生の御健康を祈る吾人の熱烈な希望を意味して居る。